

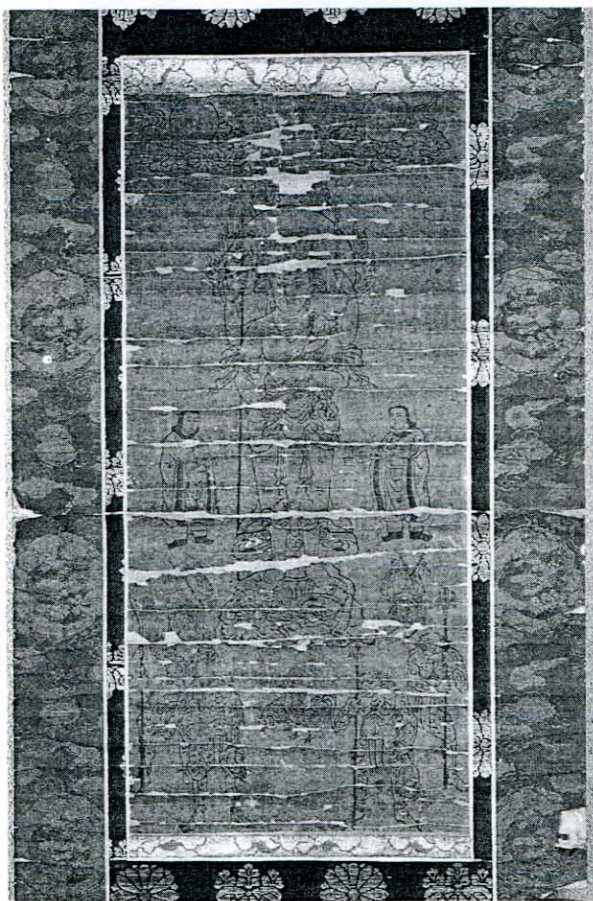


博物館だより

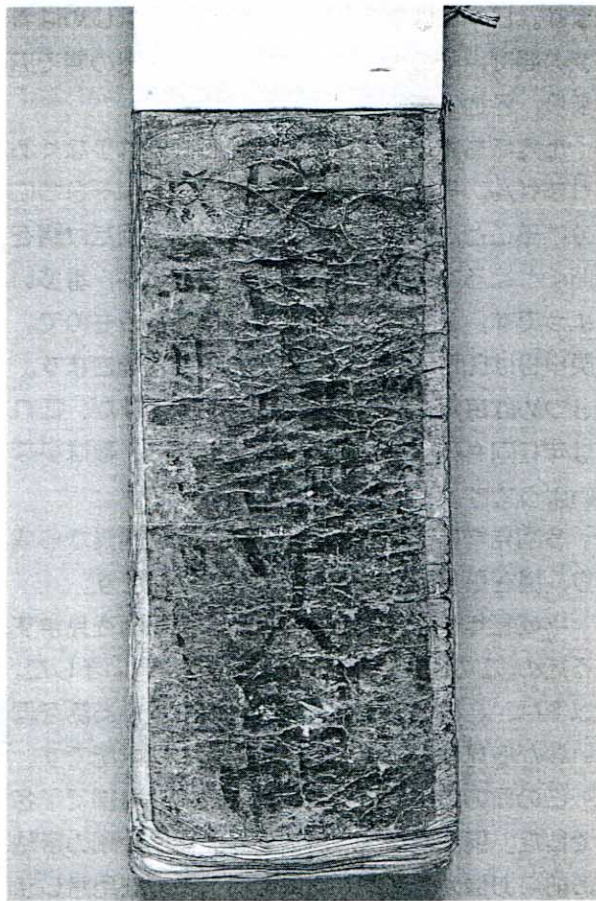
第50号

2000.3.30

Nagano City Museum



▲講軸「青面金剛像」
しょうめんこんこうぞう



▲庚申講人別帳
こうしんこうにんべつちょう

新収蔵 資料紹介

中越の庚申講用具一式 (中越庚申講 寄託)

この資料は長野市中越で行われている庚申講の用具で今年度新たに寄託された資料です。中越には年号のあるものでは市内で最も古い庚申塔（慶安三年 1650）があり、市の文化財に指定されています。寄託された資料もまた、市の文化財に指定されているもので、特に人別帳は元禄六年（1693）から現在に至るまでの講の活動を連綿と記録しているとても貴重な資料です。また、青面金剛が描かれた掛軸は、講が始まって以来ずっと使われてきたといわれ、傷みが激しくなって昭和33年に新調されました。これも長く続く講の歴史を物語る

大切な資料です。

市内ではこのほか妻科の庚申講の用具（当館寄託）が市の文化財に指定されており、こちらの人別帳も寛永六年（1629）からの講の記録が記されています。妻科の庚申講は残念ながら現在は行われていません。

江戸時代から現在まで続く民間信仰資料は残されることが少なく、現在も続けられている中越の庚申講とともに後世に伝えていかなければならないものといえるでしょう。

（細井雄次郎）

中越庚申講見学記

庚申講は、かのえさる（庚申）の晩に人々が宿に集まり、話などをしながら一夜をすごす行事です。これは、庚申の晩はそれまで人間の体内に潜んでいた三尸さんしという虫が外に出て、これまでの人間の悪事を天帝に報告する日なので、体内から三尸が抜け出さないように一晩中起きていなければならないという中国の民間信仰がもとになっています。日本には奈良時代末頃に入り、はじめは貴族の間で、その後江戸時代になると民衆の間で広まり、各地に庚申講ができました。

市内にも庚申講を行っているところは少なくありません。その様子を見ると講は、およそ3つに分けることができます。1つは年に1回だけ講を開くところで、講の数からするとこれが一番多いようです。2つめは講を庚申の日に行うもので、庚申日は60日毎にあるので年に6回程開きます。3つめは毎月1回申の日に行うものですが、これは年12回も行うので講員も大変なため、数は少ないようです。

今回見学した中越の庚申講は11軒の講員から成り、講を毎月開く数少ない講のひとつです。

平成12年3月25日の夜、中越の庚申講を見学するため、この月の講宿こうやどの宮下さん宅に伺いました。以下は、この日集まった講員の方々からお話を伺いながら見せていただいた庚申講の見学記です。

この日の出席者は4名の方が欠席し全部で7名でした。講宿となった宮下さんは青面金剛の掛軸の前にお供えをあげ、講員のお茶受けを用意します。講員が揃うとしばらく話をしたあと、誰ともなく「さて、そろそろ」との声がかかり、講宿が縁側に用意した水で手を清め、それぞれ般若心経を持って掛軸の前に座ります。先頭には講の代表の神保美見さんが座り、神保さんのあげるお経に皆が続きます。お経は途中に庚申講員の家内安全、五穀豊稔ごこくほうじょう、交通安全などを読み込みおよそ20分で終了します。しかし本番はこれから。「話はオカノエの晩に」と言われるようにこのあとは講員のよもやま話が続き、話は午後10時をまわるまで続きました。

現在も毎月欠かすことなく続けられている庚申講ですが、今と昔では変わってきている点もあるようです。昔（戦前）の頃の様子を講員の方々に



▲講宿が用意した水で手を清める

少し語っていただきました。

昭和16、17年頃までは、講の時に当番は講員から4合の米を集め、ごまあえなど一汁一菜を用意し、簡単な食事を出した。講員は野良仕事が終わった頃、講宿に集まり当番が用意した風呂に入って一日の仕事の垢を落とす。まだ水道みづなどのない頃で、水は貴重なので今みたいに体を洗うためだけには使えない。風呂の中でゴシゴシやるから何人か入るとどうしてもお湯が汚れる。最後のほうはお湯がベタベタになっていた。今考えるとそんな汚れたお湯によく入ったなあと思うが、それでも一日の野良仕事で汚れた体がきれいになったのであまり気にならなかった。昔は米のとぎ汁ひとつもただ捨てることなくためておいて畑の肥やしにしたように、ものには無駄がなかった。このお風



▲神保さんを導師にお経を読む講員

呂の水も肥やしになった。お風呂に入ってさっぱりした後には皆でお経をあげ、それが終わると当番の用意した食事をいただいた。月に一度、皆が顔をそろえる講は情報交換の場でもあったので、夜遅く12時をまわるまで続いた。

11月は収穫の祝いを兼ねた大師講^{たいしこう}、12月はお取り越しで、この2回は当番が講員からもち米を集めてお餅を搗き、お頭つきの魚と酒一升を用意した。12月にはトロロをかけたいも汁ごはんがでた。当然両月の当番の負担は他の月よりも重かったが、この月の当番になるとそれまで男の子が生まれなかったのに男の子が生まれたとか、それまで不作だったがもち米がたくさん取れたなどいろいろと幸運を授かるので、逆に11月12月は大当たりで、この月の当番にあたるのはとても縁起のよいことだった。今も12月の講はお取り越しで特別だが、あらかじめ月に一人500円ずつ積み立てをしておいて、講宿でお勤めをしてから、そのお金で近所の料理屋で一杯やるので当番の負担は昔に比べれば減ったようだ。

毎月きちんと講が行われている中越の庚申講も、昔の話を伺うと、簡素化されてきていることがわかります。

本来、庚申信仰に根ざした集まりであった庚申

講ですが、その内容を見ると講をきっかけにして集まる人々の情報交換の場であったことがわかります。また、地域によってはオカノ工仲間^{オカノウ仲間}といって、講員に不幸があると講の仲間が墓の穴掘りや棺を担いだりする相互扶助的な性格をもった庚申講も見られます。これは庚申講に限らず、「講」の名がつく集まりは信仰の場であるとともに社会的な機能も果たしていました。しかし、現在こういった講は次第になくなってきています。これは地域において講に代わる新しい場ができたことを意味するのでしょうか、それとも地域が庚申講のような働きをする場を必要としなくなったことを意味するのでしょうか。

(細井雄次郎)



▲中越庚申講の皆さん

寄贈・寄託・購入資料の紹介

平成11年度も多くの資料のご寄贈・ご寄託をいただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略・順不同)

●寄贈資料

名取正秋(青木島町)ふいご
金子芳郎(中野市)柳行李
窪田敬一(松代町)マッチラベル他5点
藤沢善三郎(南高田)軍靴他3点
平松春信(篠ノ井)鬼瓦
瀬川 収(稲里町)日本・外国の紙幣
長勝寺(信更町)お札2点
玉依比売命神社(松代町)御判事
石島庸一(山形県)石筆
師田家(松代町)古文書・袴他
山口立雄(新諏訪町)長野恵比寿講煙火大会資料
倉島久子(松代町)麻切包丁
小林恒夫(若穂)おもちゃの太鼓

●寄託資料

上中堰土地改良区(篠ノ井)上中堰土地改良区文書
赤沢徳宝(篠ノ井)赤沢家文書
堀 清巳(丹波島)大地震満水の図版木

堀内一男(松代町)堀内家文書
中越庚申講(中越)庚申講用具

●購入資料

善光寺堂寺蹟書
善光寺寺務職大本願寺蹟書
改正平仮名絵入善光寺如来略縁起
信州善光寺如来略縁起
諏訪大明神絵詞
地震瓦版信濃国大地震之事
御条目図解
鉄道競争すごろく
善光寺道名所図会 5冊揃
富岡製糸場工女勉強之図
内国勸業博覧会製糸器械之図 3枚一組
訂正養蚕秘書 上下2冊
聚玉紙集
諸国合戦双六

プラネタリウムに園児の歓声！

プラネスタッフ：「昨日は何時に寝ましたか？」
園児：「8時ー！！」「9時！！」「10時！！！」
プラネスタッフ：「今日はこれからプラネタリウムの中で朝まで起きているんだけど、いいかなー？」

園児：「えー」「いいよー」「いいよー」
プラネスタッフ：「好きな動物は何だろう？」
園児：「ネコー！」「イヌー！」「うさぎー！」「ワニー」「カバー」??

普段プラネタリウムでは聞かれない、元気いっぱいの園児たちの声がドームいっぱいに広がります。長野市立博物館の幼稚園・保育園投影の始まりです。普通のプラネタリウムの投影では、園児たちは当然飽きてしまいますので、いかに最後まで園児たちをプラネタリウムの星たちに関心を引きつけられるかが勝負です。当館での方法のいくつかをご紹介します。

◎園児たちの声を引き出す。

元気な声をたくさんだしてもらうことによって、園児たちにも参加してもらいます。

◎ルールを作る。

自由に声を出すときと、みんなで一緒に一斉に声を出すとき、そして、静かに話を聞くときの3つの時間をきちんと守るということを約束してもらいます。

◎親しみやすいものを使う。

動物やアニメは園児たちも大好きです。そして、幸いにも動物の星座がたくさんあります。それらを有効に使っていきます。

◎園児が知っている音楽をたくさん使う。



▲プラネタリウムに入場する園児たち(裾花幼稚園)



▲プラネタリウムに入って元気いっぱいの園児たち(裾花幼稚園)

知っていれば、当然みんなで歌い始めますし、また、そうなるように事前に促していきます。

投影が始まり、園児たちの幼稚園・保育園をスクリーンに映し出すと(事前に園へ行って撮影しておきます)、途端に大きな歓声が上がります。音楽をかけながら園児たちの写ったスライドなども映していきますが、この時点で園児の心をつかめればその後は順調に投影を進めていけます。ある幼稚園投影で行った主な内容は次の通りです。投影の雰囲気を感じていただければと思います。

【日 没】

ドラエモンの歌で太陽が沈んでいく。

【午後8時】

おひつじ座(メリーさんの羊)

オリオン座・うさぎ座

おいぬ・こいぬ座(犬のお巡りさん)

【午前0時】(ポケモンの歌で時間を進める)

しし座・うみへび座

おおぐま・こぐま座(森の熊さん)

【夜明けまで】園児のスライドを使って、

思い出のアルバムの歌を流す。

こうして、あっという間に1時間が過ぎ、投影が終わりますが、皆飽きた様子もなく、むしろ「もう少し見たい」という声がたくさん響きました。年長さんが3月頃来るときは、時によっては園の先生をちょっぴり泣かせてしまうときもありました。

博物館での幼稚園・保育園投影をご希望の園は
ご一報ください。(大蔵 満)